

くぬぎ地蔵のよさを広めよう！

諸塚村立七ツ山小学校

H28年度5、6年生

みなさんは、くぬぎ地蔵をご存知ですか。くぬぎ地蔵とは平成15年3月に、立岩地区にあった樹齢100年を超える巨木、クヌギの木を使って最初に製作されたお地蔵さんのことです。このくぬぎ地蔵は、東京にあるとげぬき地蔵がもとになって作られています。東京の方から、「とげぬき地蔵のような地蔵をつくって見ないか。」と言われ岡田秀光さんが最初に製作されたそうです。現在は、甲斐安正さんが製作されています。



村内には、6つのくぬぎ地蔵が置かれています。6つのくぬぎ地蔵は、諸塚村の様々な場所に置いてあります。

2005年の台風14号では、くぬぎ地蔵がいくつも流されてしまいました。流されてしまった5つのうちの1つは、美々津方面に続く「耳川」で発見されたそうです。その時、諸塚村の人は、みんな「見つかってよかった。」と思ったのではないのでしょうか。

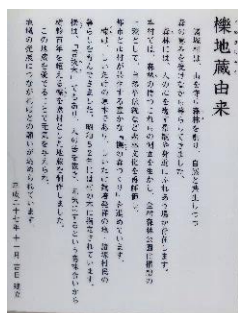
ぼくたちは、この話を聞いて「諸塚村にしかないくぬぎ地蔵をもっともっと大切にしていこう。」という気持ちが強くなりました。

さらに調べてみると、このくぬぎ地蔵は、水害を防ぐため、「水のある所」「水害があった所」祀られています。くぬぎ地蔵になぜ「くぬぎ」の木が使われているのかというと、「苦しみの『苦』を抜く」という意味が込められているそうです。漢字に直すと「苦

抜き地蔵」となります。

ぼくたちは、このような意味があるということを知って、「もっとくぬぎ地蔵について調べよう。」という気持ちがどんどん強くなっていきました。

材料であるくぬぎの木は、諸塚村の木に指定されたことがあります。諸塚村では、しいたけ栽培が盛んですが、このしいたけ栽培の原木には主にくぬぎの木が使われています。そんなくぬぎの木は、諸塚村のくぬぎ地蔵を作るにあたってとてもぴったりとぼくたちは思いました。



このくぬぎ地蔵は、「愛でること」で元気を与えてくれるありがたい存在であると同時に、「地域の発展を」との願いがこめられています。くぬぎ地蔵の優しい顔を見ると、「日々の疲れが吹き飛んでしまう」ととても評判がいいです。諸塚村を訪れる機会があれば、ぜひ「くぬぎ地蔵」の頭をなでてみてください。幸せな気持ちにつつまれることでしょう。



くぬぎの木を使ったくぬぎ地蔵は、この諸塚村にとって、「かけがえのない」「なくてはならない」存在であるとぼくたちは思っています。

(文・編集：O・D、Y・T)



そんなくぬぎ地蔵について、私たちはさらに詳しく調べてみました。

現在、くぬぎ地蔵を製作されている方は、先ほども書いたとおり、甲斐安正さんです。現在の形のくぬぎ地蔵は、平成15年に最初に製作されたそうですが、初代の製作者である岡田秀光さんから、現在は甲斐安正さんが引き継いでいらっしゃることを知って、私たちはびっくりしました。素晴らしい

伝統がしっかり受け継がれているのだなと感動しました。

諸塚村は和紙が盛んだったことから、くぬぎ地蔵の製作が始まったといわれています。岡田さんが13歳だった当時は、くぬぎ地蔵はお札として売られていたそうです。現在のくぬぎ地蔵は、甲斐さんが木彫りで作られています。私たちも、このくぬぎ地蔵を大切に守っていく必要があると思いました。

今回、私たちは、甲斐安正さんの所で、「木彫りのお札(キーホルダー)」、「しゃもじづくり」の体験をさせていただきました。普段なかなかできない体験を甲斐さんにさせていただいたので、諸塚村の文化に親しむことができました。甲斐さんの思いにふれるとともに木彫りのくぬぎ地蔵を作る大変さも分かりました。

また、このくぬぎ地蔵は、木彫りのお地蔵さんに加え、ストラップも製作されており、くぬぎ地蔵ストラップは、黒木まりこさん、甲斐ツヤさんが製作されています。



このくぬぎ地蔵ストラップは、平成19年に最初に作られました。初めは大きかったそうですが、今では、約6cmのストラップとして売られています。持ち運びのできるサイズですね。このくぬぎ地蔵ス



トラップは、今知る人ぞ知る、秘かな人気商品になっており、某有名スポーツ選手が愛用するほど人気があるということも分かりました。

黒木さんは、縫物が好きで、「いろいろなものを作りたい」という思いからストラップを作ろうと思ったそうです。これを聞いて、「村のために、役にたつことをするなんてすごいなあ。」と思いました。「買い求めてくれる方」への思いを込めて、ストラップを一つ一つ、丁寧に手作りで製作している

そうです。この思いにとても感動しました。

また、お二人から、毎回くぬぎ地蔵を、何百個も作っていると聞いて、とてもびっくりしました。諸塚村のために、くぬぎ地蔵ストラップを欠かさず作っているということは、とても素晴らしいことだと思いませんか。私も、お二人をまねして、諦めずに何事にも挑戦していきたいです。

くぬぎ地蔵ストラップを作るときに大変なのは「顔」だそうです。私はこのお地蔵さんの顔を見るととても落ち着きますし、幸せな笑顔になります。お二人は、「作るのは大変だけど作り終わった後には達成感がある。」とおっしゃっていました。

私は、くぬぎ地蔵を守り続けて、大切にしてきた方々の思いにふれ、とても感動しました。この学習をして「思いやりの心」について学ぶことができました。私も、このような心もち続けたいと思います。このような、貴重な体験を将来に生かしていきたいです。貴重な体験をさせていただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

諸塚の人たちの温かく優しい思いのこもった木彫りのくぬぎ地蔵や、くぬぎ地蔵ストラップは、諸塚村の観光協会販売されています。ぜひ、手にとってご覧いただきたいと思います。また、諸塚村に来たときはぜひ、安置されているお地蔵さんを見て行かれてください。優しいお顔を見ると、嫌な気持ちや苦しい気持ちが、自然と和らぐはずですよ。



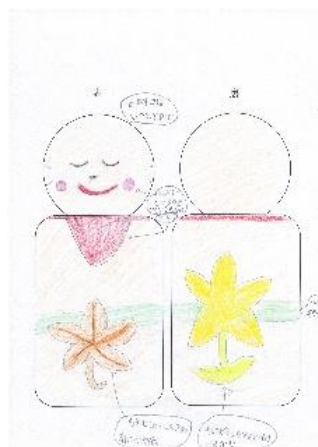
(文・編集：U・K、I・T)

ここまで、くぬぎ地蔵について色々調べたり、見学・体験したりして、その歴史や謂れ、携わる人の思いにふれることができました。その学習の中で、私たちは「こんな諸塚村の優しい思いや温かさの込められたくぬぎ地蔵をもっともっとたくさんの人に知ってもらいたい」「私達も諸塚村の一員として、くぬぎ地蔵製作に携わりたい」という思いが強くなってきました。

そこで、私たちは、毎年秋に行われる諸塚村小原井地区の「黒岳もみじ祭り」で販売する「黒岳もみじ祭り限定くぬぎ地蔵ストラップ」のデザインをさせていただくことになりました。

今回のストラップには、「しいたけ」「もみじ」「キレンゲショウマ」の3つをデザインしてみました。

まず「しいたけ」ですが、諸塚村の特産品です。しいたけは、木彫りのくぬぎ地蔵を作る材料でもある、くぬぎの木で栽培されます。木彫りのお地蔵さんも手に椎茸を持っていらっしゃるのので、どのくぬぎ地蔵ストラップにもデザインされています。やはり、しいたけは欠かすことができないと思ったのでデザインしました。ちなみに、諸塚村の原木椎茸はとてもおいしいですよ。ぜひ、お土産に買って行ってくださいね。



次にデザインしたのが「もみじ」です。祭りが「黒岳もみじ祭り」ということと、秋の季節にピッタリなのでデザインしてみました。実際には、赤と朱色の2色のもみじが付けられました。黒岳もみじ祭りは、秋の紅葉のシーズンでもあり、当日の会場では、本物の美しいなもみじを見ることができます。黒岳の頂上まで登って疲れてしまっても、きれいなもみじに癒されますよ。きれいな青空と美しい木々の並ぶ緑の山をバックに写真を撮ると、とても素敵でおすすめです。



最後に「キレンゲショウマ」ですが、皆さんは「キレンゲショウマ」をご存知でしょうか。「キレンゲショウマ」は、植物の名前です。希少植物でとても珍しい植物ですが、七ツ山の黒岳周辺で見ることができます。希少植物なので地域の方々の協力で大切に守られています。鮮やかな黄色で小さめのとっても美しくかわいい花です。黒岳に来る機会があったらぜひ、見て帰ってくださいね。

この私たちのデザインをもとに、普段からいろいろな種類のくぬぎ地蔵ストラップを作っている黒木まりこさん、甲斐ツヤさんに「七小デザイン・黒岳もみじ祭り限定くぬぎ地蔵ストラップ」を製作していただきました。とても可愛らしくくぬぎ地蔵ストラップが完成しました。私たちの考えたデザインは、細かいところがたくさんあり、作るとなるととても大変で難しかったと思います。でも、黒木まりこさんと甲斐ツヤさんは、とても器用な手で1つ1つ丁寧に思いを込めてたくさんのかくぬぎ地蔵ストラップを作ってくださいました。諸塚村のみなさんは、とても優しい方々だなと改めて感じることができました。思いどおりの「七小デザイン・黒岳もみじ祭り限定くぬぎ地蔵ストラップ」ができ上がったのでとてもうれしかったです。



私たちは、黒岳もみじ祭り当日、でき上がった「黒岳もみじ祭り限定くぬぎ地蔵ストラップ」を自分たちの手で販売しました。最初は、販売する時、どのように販売すれば売れるのだろうかと思いましたが、観光協会の堀川さんのアドバイスのおかげで、慣れてくると笑顔で販売することができるようにな



りました。

当日、「七小デザイン・黒岳もみじ祭り限定くぬぎ地蔵ストラップ」を買ってくださった方々の中には、3つ以上買ってくださった方もいました。とても大好評で、黒木まりこさん 甲斐ツヤさんの作ってくださった「七小デザイン・黒岳もみじ祭り限定くぬぎ地蔵ストラップ」は、完売することができました。子供から大人まで幅広い方々に買っていただき、本当に感謝しています。

また、黒岳もみじ祭りにお越しいただいた県外の方から、後日感謝のご連絡もいただきました。正直、あまり売れないかもしれないと少し心配していましたが、実際販売してみるとすごく売れたので、本当にうれしかったし、よかったです。

(文・編集：K・S、N・T)



最後に、ぼくたちは、このくぬぎ地蔵を今後さらにPRしていくために、マスコットキャラクターを製作しました。



七ツ山小の5・6年生は、2年前に七ツ山にある黒岳について調べ、たくさんの人に黒岳を知ってもらうために、マスコットキャラクターを作りました。もうすっかりおなじみになった「くろりん」です。このくろりんを作ったのは、当時の6年生です。

くろりんの特徴として、くろりんの体は、黒岳まんじゅうでできていて、頭には、キレングショウマがのっているのが特徴です。くろりんの体の色は、ベースの色が緑色で黒岳にある特産物を組み合

わせて作り出したゆるキャラです。

そして、今年ぼくたちが作ったゆるキャラが、くぬぎ地蔵ストラップをモチーフにした「くぬぎさま」です。くぬぎさまは、諸塚の特産物のしいたけ、そして、黒岳モミジ祭りのもみじを持っています。くぬぎ地蔵だけではなく、諸塚村全体もPRする時にも、このマスコットキャラクターを使っていきたいと思っています。

木彫りのくぬぎ地蔵や、くぬぎ地蔵ストラップは、ものすごく手間がかかっていますし、それをぼくたちも体験を通して実感しました。今は機械の世の中、ほとんどのことをロボットが行います。しかし、今も変わらない人の手で作業すること、人の手では作業できないことは、ぼくは残していったほうがいいと思います。ロボットや機械を作り、効率性を求めるのは簡単です。しかし、人の手で作ることでしか出せない味というものがある



ります。まさにそれが木彫りのくぬぎ地蔵やストラップなのではないでしょうか。

ぼくはこれから先、新たなものを作り出すのは人の手、自分の手だということを忘れずに、色々なものを創り出していきたいです。

(文・編集：S・E)



私たちは、今回の学習を通して、とても貴重な体験をさせていただくことができました。普段は気にしなかった、当たり前のように存在していたくぬぎ地蔵。たくさんの方々の思いで作られたことを知り、その思い1つ1つにふれることができ、くぬぎ地蔵、そして私たちの生まれ育ったこの諸塚村の良さを今まで以上に感じることができました。

今回学ばせていただいたことをもとに今後の学習につなげていこうと思います。そしてこの素晴らしい諸塚村を「くぬぎ地蔵」を通して、たくさんの方々に伝えることができるように努力していこうと思います。「くぬぎ地蔵」を通して学んだことを一生忘れずに、未来の諸塚村を支えていく次の世代にも伝えていきます。

今回、ご協力してくださった諸塚村の方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。